

関西テラス

Kansai Terrace

京都とパラスポーツの歴史

1964年	府と市が身体障害者スポーツ大会を初開催
71	京都府立体育館が開館
72	府立体育館でパラスポーツイベントの定期開催が始まる
82	綾部市で国内初の車いす駅伝が開催
85年頃	車いすハンドボールが誕生
88	障害者参加のシンクロナイズドスイミングを実施、全国初か
90	車いす駅伝の全国大会が開始
2024年9月	車いすハンドボールの日本代表が世界選手権初出場へ



パラスポーツ、京都に礎

掘り下げ! 関西白書

パリ・パラリンピックが開幕し、注目が集まるパラスポーツ。調べてみると、車いすハンドボールに駅伝と、国内では京都発祥の競技が複数あることが分かった。府立体育館では50年以上前からパラスポーツを楽しむイベントを定期開催。地域に根ざす活動が今も続いている。

ハンドボールや駅伝発祥、盛んに

8月下旬、大阪府熊取町内の体育館。車いすハンドボールの強化合宿で、日本代表選手が車いす操作やシュート練習、実戦形式のミニゲームに汗を流した。車いす同士がぶつかり転倒することもあった。

日本代表15人のうち11人は9月にエジプトで開かれる世界選手権に出場する。足首がまひする滋賀県栗東市の安田孝志さん(51)は世界選手権を目指して3年前に競技を始めた。「遠征メンバーに選ばれるために



車いすハンドボールの強化合宿で練習する日本代表選手 (24日、大阪府熊取町)

必死だ」と話す。

国内で車いすハンドボールが誕生したのは1985年ごろ。京都府在住の車いす利用者がパラスポーツ支援に携わる水谷裕さんが提案した。車いすハンドボールの代表格のバスケットボールと比べ、上半身の筋力が弱い人にも楽しんでもらうなどの狙いがあった。

競技はその後、ヨーロッパや南米などでも広がる。近年は国際競技規則が策定されるなど、パラリンピックでの採用を目指す動きが活発化しているという。

時の参加は府民限定だったが、90年以降は全国から参加を募り京都市で大会が続く。京都開催の88年全国身体障害者スポーツ大会では初めて障害者も参加するシンクロナイズドスイミング(現アーティスティックスイミング)が実施された。こちらも初とみられる。

35年前の交通事故で脊髄を損傷した京都市の寒川進さん(55)は92年に車いす駅伝の全国大会を初観戦。「西大路通を全力で駆け抜ける様子は、人生が真っ暗だった自分には輝いて見えた」。翌年から練習を始め、今も府内のチームで大会に出場している。

パリパラ観戦意向は4割

共通ポイント「Pont a (ポント)」を運営するロイヤリティマーケティング(東京・渋谷)の調査「Pont a リサーチ」によると、パリ・パラリンピックの観戦意向について、「観戦したい」「やや観戦したい」と答えた人の割合は全

体の42.5%だった。調査は5月10〜17日、日本国内の10歳以上の男女を対象にインターネットで実施。2万5555人から有効回答を得た。

最も注目の高い競技は車いすテニス(11.3%)で、マラソン(6.2%)、水泳(4.5%)が続いた。注目する競技がないとの回答は55.0%だった。

京都でパラスポーツが盛んになった理由の一つに体育館などの環境整備がある。

京都障害者スポーツ振興会(同市)50年史によると、京都でパラスポーツが本格的に始まったのは、東京でパラリンピックのあった64年。府・市が障害者を対象にしたスポーツ大会を初めて開催した。前年から、障害者スポーツ大会が厚生省(当時)の補助金交付の対象となり、全国で同様の取り組みが始まった。

このころ府政を担ったのは「革新首長」の蛸川虎三知事。71年に開館した京都府立体育館(現・鳥津アリーナ京都、同市)は「すべての府民を対象とした体育館」をつつた。当時では珍しく、ハードルなどの障害物に触れないように走る「障害急歩」などのパラスポーツ器具が備えられた。

同会は72年から、同体育館で障害者がパラスポーツなどを楽しめるイベントを毎月開く。定期開催は京都が全国初という。同会の中村芳道事務局長は「障害者はスポーツをするだけでなく、他者と交流する機会が」と増えた」と意義を語る。現在までに計584回開き、延べ7万人以上が参加した。

(大野永暉)